

# 継続・改革・挑戦

-地域農業の更なる発展に向け補完機能の強化をめざして-

## 2024年 事業案内

上川生産農業協同組合連合会(JA上川生産連)







農業・JAを取り巻く内外の情勢を踏まえ、「中期経営計画」（令和5年～7年度）の内容に沿って事業運営を進めてまいります。

事業運営においては、管内生産者の減少や高齢化による担い手対策が急務であり、農産分野としては「主要農産物種子等の生産供給事業」を通じて種苗の計画生産・安定供給を図るべく採種生産者の技術継承を進めてまいります。酪農畜産分野においては、各種生産者団体の活動を包括的に支援し、担い手の情報交換および飼養技術向上に向けた適正な情報提供を図り、生産者の経営安定化に向けたサポート体制の強化に努めてまいります。

新たな農業政策への対応、消費者との信頼構築に向けた取り組み、担い手や生産者組織の育成等に積極的に関与することにより、将来の管内農業を見据えた「人づくり」「組織づくり」を支援してまいります。

上川地区の農業を取り巻く環境が大きく変化する中で、地区連合会としての立ち位置や存在意義を明確にするとともに、本会の持つ地域に根ざした人的資源を十分に活用し、会員JAから必要とされる組織であり続けるために、組合員・会員JAとともに、持続可能な上川農業の実現に貢献し、会員JAおよび地域の期待に応え信頼される組織を目指します。

会運営にあたっては、経営環境の変化に対応した事業の再構築と経営管理機能の強化に努め、業務の効率化、財務の健全化、経営の安定化を進めるとともに会員ニーズを的確に捉え、その負託に応えられるよう役職員一丸となって事業運営を進めてまいります。

## 地域農業の更なる発展に向け補完機能の強化を目指します

当会は、北海道のほぼ中心に位置する上川管内13JAの出資で構成されるJA連合会で、会員が協同してその事業の振興を図り、その組合員の農業の振興、経済状態の改善及び社会的地位の向上に寄与することを目的に設立されました。

上川管内における地域農業の活性化と発展に向けて、会員JAの活動に対する補完機能の充実強化と支援体制の整備を図ることが当会の目的であり課題でもあります。

昭和23年の設立以来、この目的と課題を念頭におきながら事業活動を進めて参りました。

今後も変わることなく前進して参りたいと存じます。

内外とも厳しい農業情勢下にあります。農業者が希望のもてる将来に向けて、農業基盤の整備構築が最重要課題であり、一丸となった系統運動の展開が望まれるところであります。

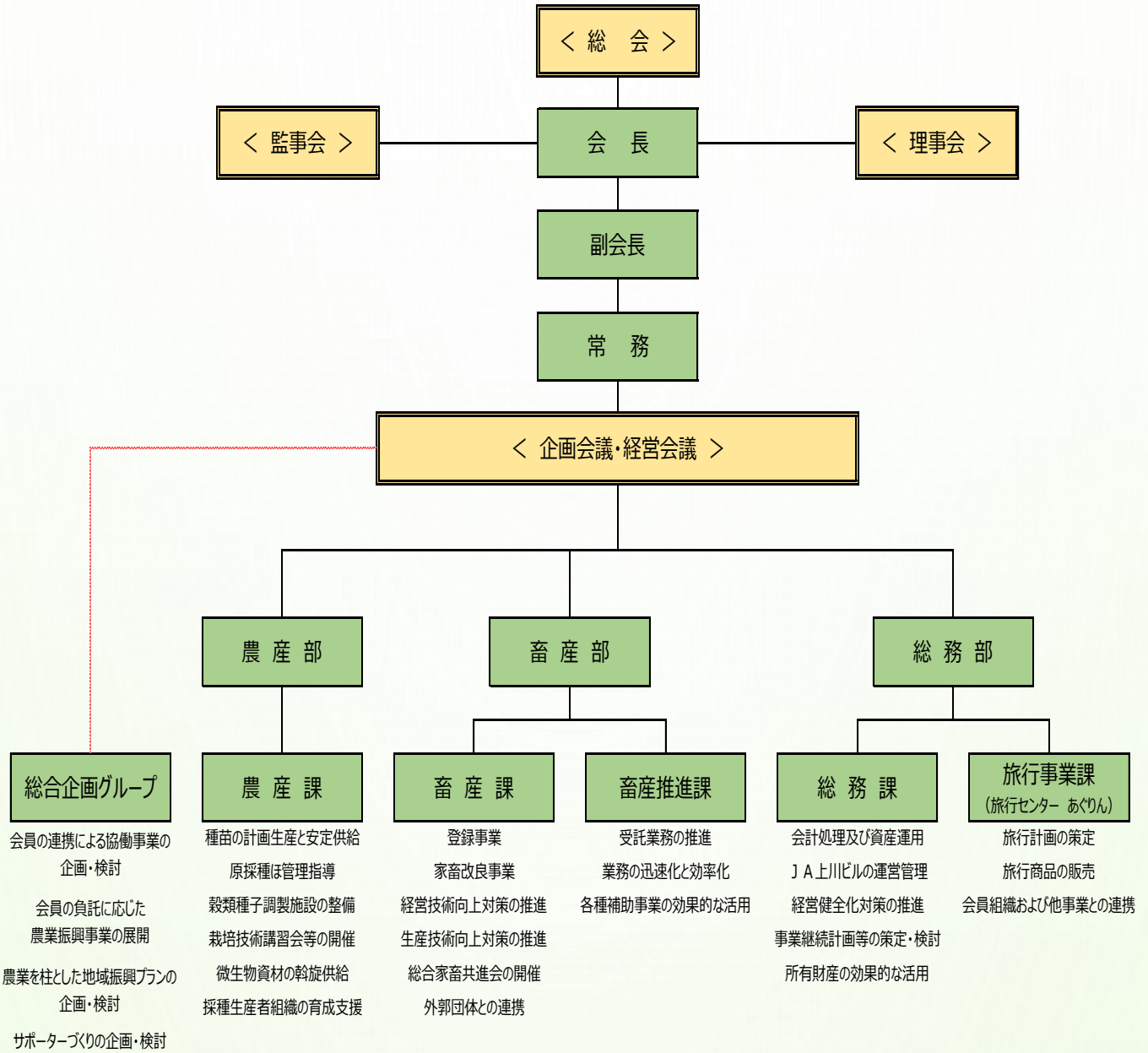
以上の状況を踏まえ、地域に根ざす地区連合会としての役割と責任を果たすべく、克服する課題の整理と進むべき方向性を指し示す道標として「継続・改革・挑戦」を合い言葉に、JAグループの一員として、会員の負託に応えるべく努力して参ります。



代表理事会長

榎本 實 男

# 組織機構





## 各事業部門の紹介

### 【総務部／総務課】

総務部門は、庶務や経理等の管理業務を行っている一方、JA上川ビルなどの上川生産連創立から引き継がれている財産の管理・運営も行っております。

JA上川ビルは、上川地区の農業振興拠点としてだけでなく、地域住民（消費者）とJAグループ（生産者）との架け橋としての役割を担っております。

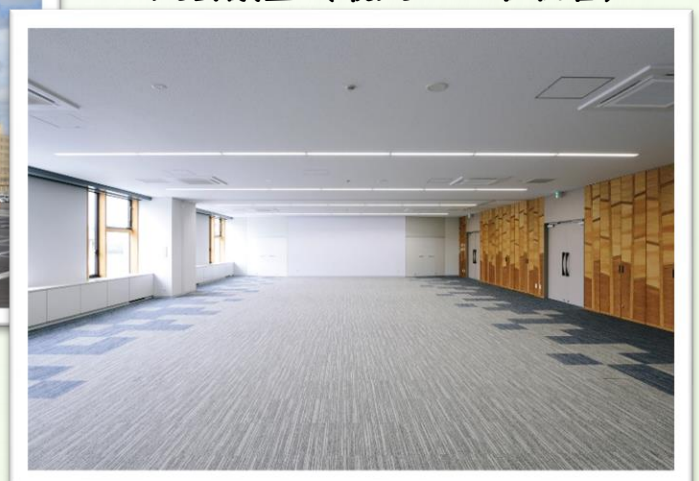
### 重点施策

- 1) 経営健全化対策の推進
- 2) 事業継続計画の更新とSDGsへの具体的な取り組み
- 3) 今後の所有施設メンテナンスに向けての検討



平成30年8月末 竣工

2F大会議室（最大120名収容）



## 【総務部／旅行事業課】

旅行事業部門は、令和3年度に「上川ビル旅行センター（あぐりん）」をオープンし、上川管内の会員組織を中心に(株)農協観光代理業を行っております。

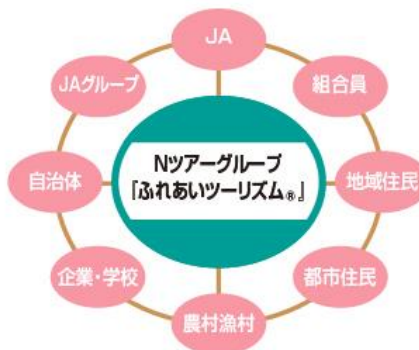
Nツアーが提唱している『ふれあいツーリズム』を通じてJAグループ・地域の「つながり」を推進します。

### 重点施策

- 1) 旅行需要の回復に対する営業体制の強化
- 2) 収入確保による経営の健全化
- 3) 旅行を通じた農業に役立つ情報発信

## “ふれあいツーリズム®”とは？

Nツアーは、JAグループのこれからの旅行事業として「ふれあいツーリズム®」を提唱しています。「ふれあいツーリズム®」とは、JAを拠点に、人と人、JAと地域、JAグループ間、都市と農村の「集い」「ふれあい」「行き交う」をコーディネートする取り組みです。「旅」や「イベント」の中で、お互いの相互理解を深める「交流・つながり」の演出を加えることで、人々が共通の体験を通じて心を通わせ、人と人の新たな絆、より強い絆づくりを目指します。



### 【農産部／農産課】

農産部門は、主に種子・種苗の斡旋供給に関する業務を行っています。上川管内の基幹作物である水稲・麦・馬鈴しょ・豆類の原採種ほの設置を図り、生産体制と検疫業務を徹底させて生産された優良な種子・種苗を会員JAにお届けします。

### 重点施策

- 1) 原採種ほ管理指導の徹底と採種ほ面積の確保による種子の安定供給
- 2) ジャガイモシストセンチュウ・ダイズシストセンチュウ蔓延防止対策の推進
- 3) 関係機関との連携による特定病害対策の推進
- 4) 種子生産者組織の育成支援、農作業省力化・軽労化に向けた取り組み
- 5) ウィーンズベース（穀類種子調製施設）の  
省コスト運営に向けた取り組み





# ウィーンズ ベース 【穀類種子調製施設（WHEANS BASE）】

令和4年3月に竣工した穀類種子調製施設は、呼称を「WHEANS BASE（ウィーンズベース）」として、令和4年産種子から稼働しており、調製実績は麦類種子が1,860t、豆類種子が735tとなりました。これからもより一層、優良種子の安定供給に万全を期して参ります。



麦=WHEAT（ウィート）  
小麦の取扱いを意味する

豆=BEANS（ビーンズ）  
大豆・小豆・菜豆・豌豆の取扱いを意味する

BASE（ベース）  
上川管内の農業経営の基礎として、  
必要不可欠である種子生産の基地を意味する

WHEANS BASE（ウィーンズベース）

本施設名 WHEANS BASEに込めた意味

WHEANS BASEの「WHEANS」は麦「WHEAT」と豆「BEANS」を組み合わせた造語であり、「BASE」は英語で土台・基礎・基地を意味しています。ロゴの「WHEANS」のアーチ型は、種子生産者から一般生産者へ種子を次のステージに渡す「架け橋」としての意味が込められており、土台を意味する「BASE」の下には、上川生産連を表記し、農業経営の基礎として大きな役割を担う種子生産を支える施設でありたいという想いを込めました。

### 【畜産部／畜産課】

畜産部門は、主に乳牛・和牛・馬の登録事業を中心に家畜の資質向上と管理技術の指導を行っています。

また、上川地区をまとめる外郭団体の事務局として各地域との連携強化のサポートに努めています。

### 重点施策

#### 1) 登録事業の普及推進

- ・管内酪農畜産生産者の経営維持向上・改善を図るため、会員JAと共に登録の重要性を発信
- ・登録月齢制限のある肉牛については、登録マニュアルの作成や利用啓発、月齢超過による未登録牛の発生を抑止

#### 2) 家畜改良事業の推進

- ・各種データを使用し、経営形態に対応した提案・指導を実施
- ・新規就農者・後継者対策として、会員JAと連携し技術研修会を開催

#### 3) 各畜種における振興対策

- ・担い手の育成や種畜改良の成果を確認する場として共進会を開催
- ・上川管内における重種馬の生産頭数確保並びに後継者対策
- ・各団体との連携を強化するとともに、「上川発信」をはじめとした畜産の生産・改良技術の情報発信



## 【畜産部／畜産推進課】

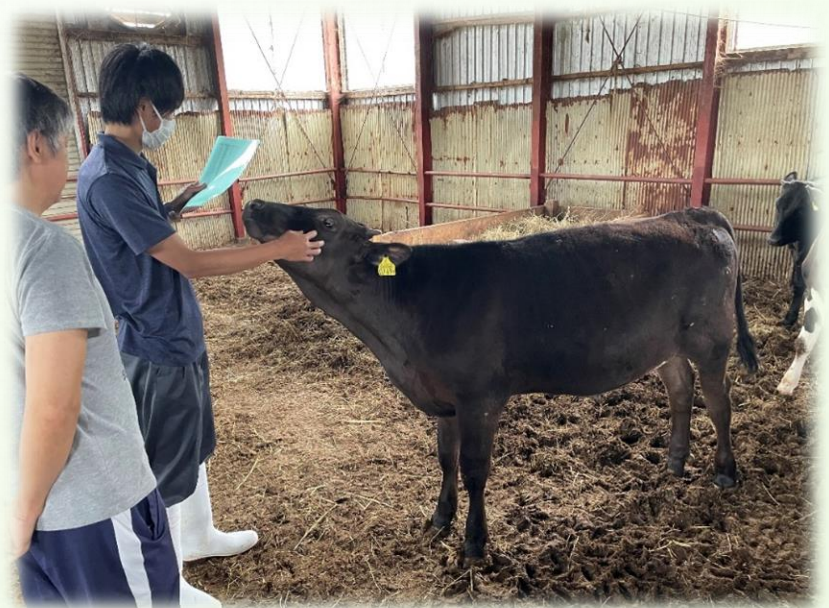
上川中央地域農協（JAあさひかわ、JAたいせつ、JA東神楽、JAびっふ町）エリアの酪農畜産基盤の振興および組合員サービスの向上と畜産業務の更なる効率化・集約化を図ることを目的に、上川生産連が畜産業務を受託しています。

永続的に酪農畜産に精通した職員を複数配置し続けることで、多角的なサポートを実施します。また、培った経験を適切に後任者につなげ、継続的な組合員サポートを実現させます。

現在各農協が行っている畜産業務を生産連が受託しますが、組合員と農協の関係性は変わる事がなく、手数料・代金精算は帰属農協に残ります。

## 重点施策

- 1) 受託業務の推進
- 2) 業務の迅速化と効率化
- 3) 各種補助事業の効果的な活用





## 各事業部門の紹介

### 【総合企画グループ】

上川管内の農業振興と担い手対策等について、各関係機関との連携を図ります。

### 重点施策

- 1) 会員の連携による協働事業の企画・検討
  - ・持続的な農業の実現に向け、必要な対策を模索し実践して参ります
  - ・直売所など会員共通事業での連携を強化し、農畜産物販売拡大を模索して参ります
  
- 2) サポーターづくりの企画・検討
  - ・JA上川ビル（食育ホール）の有効活用
  - ・消費者への発信
  - ・各種研修会の開催

令和6年度に班編成を刷新、5つの班に分かれて事業を推進いたします。

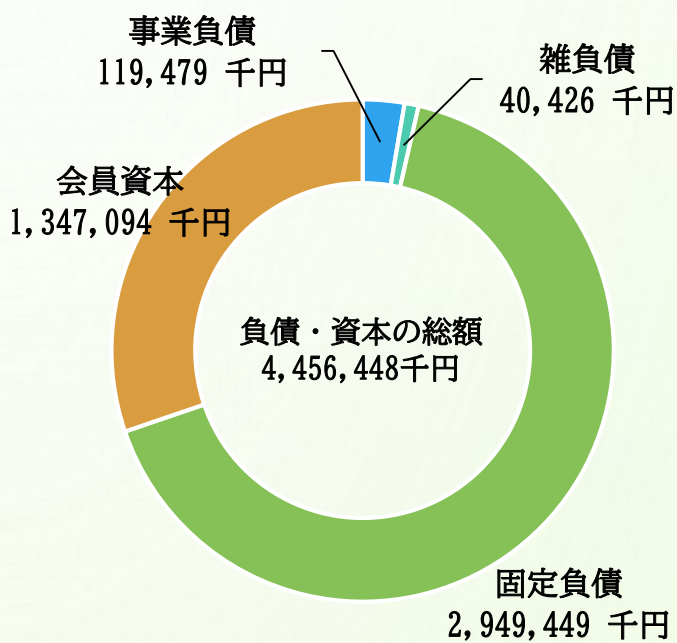
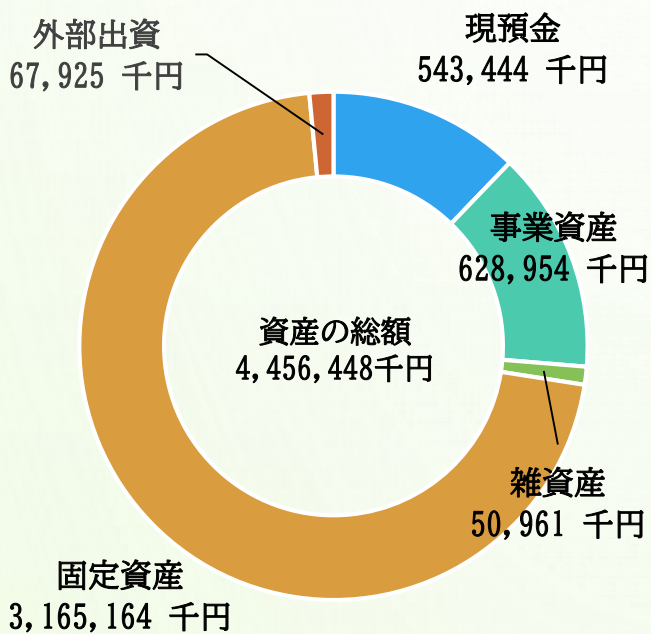
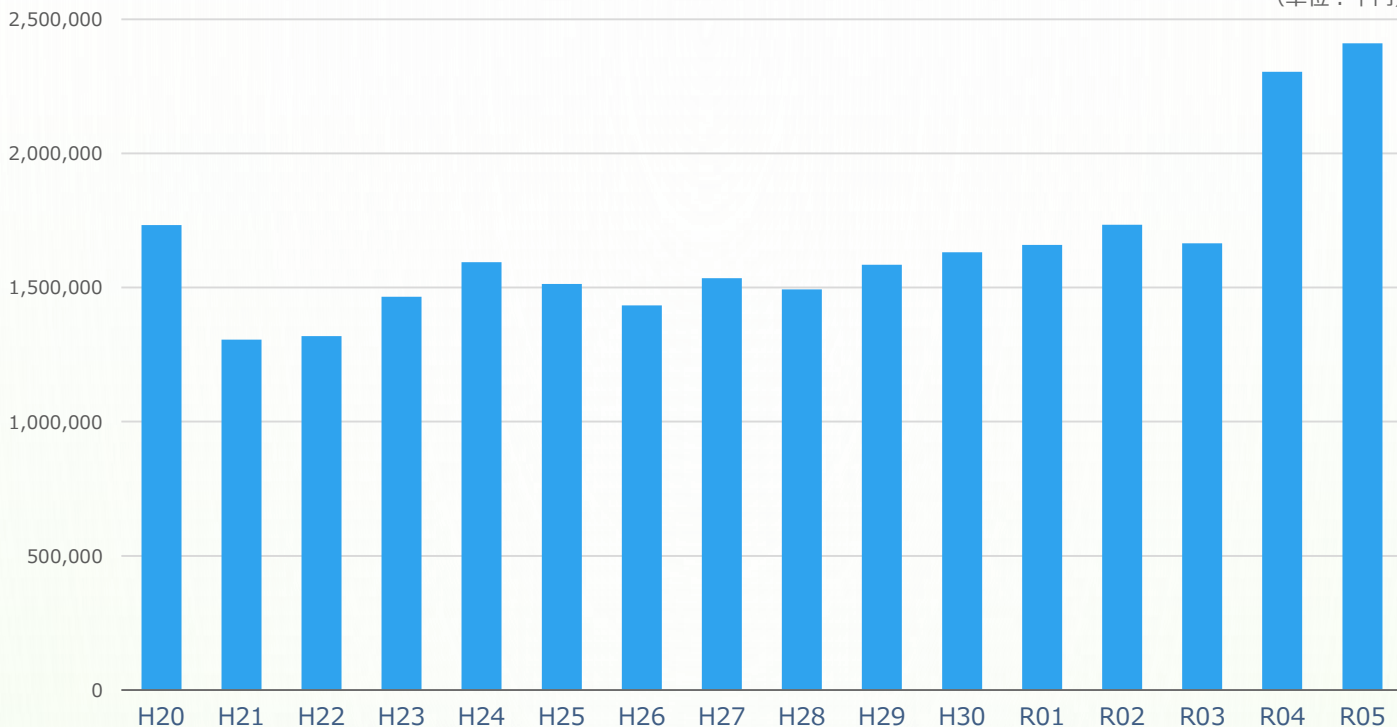
#### 班一覧

- ・イベント企画班
- ・みらい塾班
- ・地域連携班
- ・コンカツ班
- ・SNS班



## 事業取扱高の推移

(単位：千円)



## 上川生産連73年の沿革（1948～2021）

- 昭和22年11月 農業協同組合法が公布される
- 昭和23年06月 地区農業協同組合連合会の創立  
北海道は地域別に農業並びに経済事情が異なるので地区単位に特殊連合会を設置する動向となり、同年7月に創立総会が開催され、「上川生産農業協同組合連合会」が創立された。同年8月4日に設立が認可され、同月13日に設立登記を完了
- 昭和26年03月 北海道馬鈴薯採種組合連合会と合併
- 昭和27年11月 家畜人工授精所の設置
- 昭和40年07月 旭川競馬場の再開
- 昭和42年09月 新農業会館の建設
- 昭和43年05月 白金共同利用模範牧場の建設（白金牧場）
- 昭和44年08月 種鶏事業をホクレンに移譲
- 昭和45年12月 上川家畜消流センター（家畜市場）の設置
- 昭和47年08月 北海道家畜人工授精事業の整備統合
- 昭和50年04月 農地改良事業を北海道農業開発公社へ、  
営農指導事業を北農中央会へ移譲
- 昭和50年08月 旭川競馬場の建設
- 昭和60年10月 白金牧場看視舎、育成舎建設
- 昭和61年09月 豆類種子センター建設
- 昭和62年04月 畜産経済事業（北海道中央家畜市場）をホクレンに移管
- 平成10年08月 創立50周年記念式典を挙行
- 平成18年11月 ばんえい競馬撤退
- 平成20年10月 ホッカイドウ競馬撤退
- 平成21年06月 旭川競馬場閉場・解体工事
- 平成27年03月 白金牧場を美瑛町へ譲渡、競馬場跡地を横浜ゴムに売却
- 平成29年09月 J A上川ビル着工
- 平成30年08月 J A上川ビル竣工式、創立70周年記念式典を挙行
- 令和 元年07月 農業会館解体工事完了
- 令和 3年04月 J A上川ビル旅行センター「あぐりん」開設
- 令和 3年05月 穀類種子調製施設「WHEANS BASE」着工
- 令和 4年03月 穀類種子調製施設「WHEANS BASE」竣工



## 1. 位置・面積

北海道のほぼ中央に位置し、地形は南北に細長く、東西 96.7 km、南北 224.4 km、面積は 10,619 km<sup>2</sup>で全道の 12.7 %を占めています。

これは、岐阜県（10,621 km<sup>2</sup>）に匹敵する広さです。

## 2. 地 勢

中央を旭岳（2,291 m）が主峰の大雪山系、北を天塩川山系と北見山系、さらに南を夕張山系と日高山系が走行し、それぞれ広大な上川、名寄、富良野の各盆地を形成しています。

また、中央部は大雪山に源を発する石狩川が貫流し、北部は天塩岳に源を発する天塩川が縦断しており、南部は石狩川の支流である空知川が流れ、本道農業の中心地として広大な沃野を形成しています。

## 3. 気 候

北海道のほぼ中央に位置し、四方が山に囲まれた内陸地帯の盆地であるため、冬季には最低気温  $-41.0^{\circ}\text{C}$ （旭川：明治35年1月25日）、夏季には最高気温  $36.8^{\circ}\text{C}$ （上富良野：平成26年6月4日）を記録するなど、冬季と夏季の寒暖の差が極めて大きな内陸性気候となっています。なお、最低気温  $-41.0^{\circ}\text{C}$ は気象官署として全国1位の記録です。

また、南北に細長い地形のため、中央部・富良野・北部各地区の気象条件には相当の開きがあります。



上川生産連

名 称：上川生産農業協同組合連合会

事務所：〒070- 0030

北海道旭川市宮下通4丁目2番5号

JA上川ビル1F

TEL 0166-24-1003 FAX 0166-24-2516

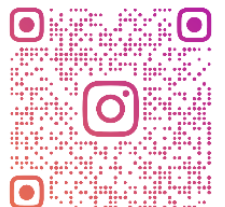
設 立：1948年（昭和23年）8月

代表者：代表理事会長 榎本 實 男

資本金：1,328,282千円（うち出資金 249,225千円）

職員数：23名

<http://www.kseisanren.or.jp/>



KAMIKAWASEISANREN